

環境報告書

2 0 2 2

Environmental Report

「未来に足りないものは、ありませんか？」

私たちは、いつも問いかけています。

今を未来へつなげるために、
人と地球の生命力を高めるために。



私たちは創業以来、常に時代を見つめ、人の暮らしにやさしい環境づくりを目指してきました。創業100年を超えた今も変わることないその理念を、さらにその先へと受け継いでいきます。
次の時代に必要な、“生きるちから”をつくるために。



株木建設は、2021年に創業100周年を迎えました。
100年間で築いた高い技術力と使命感を基に、
持続可能な社会に貢献するため、
次の100年に向けて歩み始めました。

企業情報

ご挨拶、企業情報 P. 1

環境活動マネジメントレビュー、環境目標の検証と改善の独自の手法 P. 2

環境マネジメント

建設現場の環境マネジメントの手順 P. 3

アンドン(見える化シグナル)、環境マネジメントの質の向上を目指して P. 4

本支店での工事検討会、本社での工事検討会 P. 5

環境側面への影響低減対策の結果報告 P. 6

現場パトロールでの環境点検(本支店)、社長・役員パトロール P. 7

業務のムダの削減の取り組み P. 8

各部門の取り組み

土木事業本部の環境への取り組み P. 9

建築事業本部の環境への取り組み P.11

管理本部の環境への取り組み P.13

最近のトピックス

ICT・現場支援室の業務の紹介 P.15

新入社員研修会の実施報告 P.17

若手発表会の実施報告、「株木こまちの会」の活動報告 P.18

工事成績優良企業の認定、「みなと SDGsパートナー」、表彰等の受領 P.19

社内の資格保有者数 P.20

循環型社会の構築を目指したモノづくり ～地域社会の環境保全への貢献～



代表取締役社長
株木 康吉

数々の自然災害が断続的に発生している令和の時代。元年の台風19号に始まり、記録的な強風、集中豪雨などの異常気象が、人々の生活に影を落としています。次世代へと受け渡していく未来を見据え、荒波の渦中にある現在においても、環境問題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していかなくてはなりません。

当社では、SDGs 目標達成に向けた取り組み、社会貢献活動、環境関連法規の順守はもちろんのこと、常日頃より環境負荷の低減活動を実施しています。建設資材のムダ発生防止、振動・騒音・粉塵といった建設公害の防止、CO₂の削減など、各作業所において目標を掲げ、全社一丸となって取り組んでいます。

また、「TPS(トヨタ生産方式)」を建設業にアレンジし、独自の工夫を加えた「KCS(カブキ・コンストラクション・システム)改善活動」を構築、推進しており、仕事の「見える化」を進め、施工不良による手直しや手戻りを効果的に抑制することができています。これからも情報共有により強化された基盤のもと、生産性向上と確かな品質確保に努めます。

株木グループの新たな拠点となる新マルカブビル(2024年2月竣工予定)は Zeb 化を推進してエネルギー消費量の削減を目指すとともに、職員へのヒアリングを生かし快適な職場環境を実現したオフィスとなります。ワクワクドキドキと充実感、達成感を覚えて業務に励むことのできる環境を整え、社員一人ひとりが高い熱量を持って、継続的な改善活動に取り組むよう期待しております。

これらの活動は、モノづくりと自然を調和させ、かけがえのない良好な地球環境を次世代へと受け渡していく一助となると確信しています。当社はこれからも、地域社会の環境保全に貢献し、『環境の環』を広げ、人々の生活を支える企業であり続けます。

企業情報

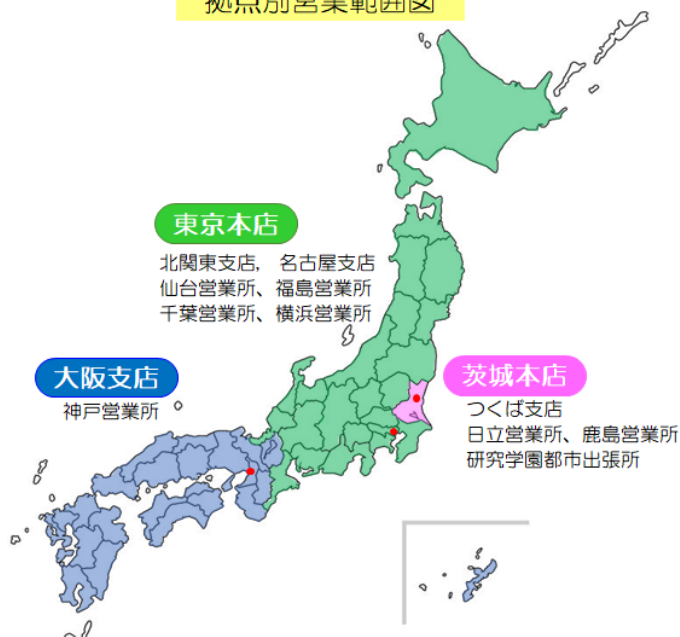
業 態	総合建設業
建設業許可	大臣許可(特-3)第3号
主な事業	土木、建築ならびに関連事業
創 業	1921 年4月
資本金	27 億円
従業員	370 名
売上高	347 億円

※データは 2023 年 5 月末時点

本支店所在地

茨城本店	茨城県水戸市吉沢町 311-1
東京本店	東京都豊島区高田 3-31-5
大阪支店	大阪府大阪市北区豊崎 5-8-17

拠点別営業範囲図





環境活動マネジメントレビュー(MR)

経営トップが表明した基本方針(目的)を達成するため、目標と重点施策を策定します。

そして、本社の品質環境管理室を中心に、事業本部と本支店が連携し、現場の声を聴きながら重点施策の具体的な実施方法(方策)を計画します。これを建設現場で実践し、得られた結果を改善して全体最適化を行います。

基本方針(目的)

安全第一を旨として「日本一の現場力」を探求し、全社一丸となって企業価値のさらなる向上を目指す

アウトプット指標(目標)

人的資源の確保・人材確保
働き方改革(週休二日制の実現)
生産性の向上(DXを目的としたICT技術の利用等)

インプット(重点施策)

【第七次中期経営計画からの抜粋】

- ① 時代に即して、変化を恐れず楽しみながら社会に貢献する。
- ② 「会社の強み」となる新技術を持つ
- ③ 安定採用の継続と人材育成

【その他の指示事項】

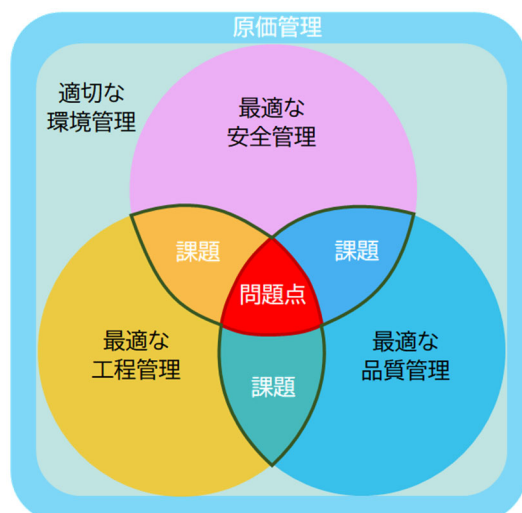
- a) 社員と協力会社の健康確保と、支援体制の充実を図ること
- b) 持続可能な社会の実現に向けて、自主的、積極的に行動し、社会に貢献すること
- c) 生産性の向上、適正利益の確保を図り、盤石な企業基盤の構築と人材育成を通して、独自の企業文化を創造すること
- d) すべてのステークホルダーから高く評価される企業を目指すこと
- e) 地球環境に配慮し、脱炭素社会づくりに貢献する企業を目指すこと

品質環境管理室を中心とした事業本部、本支店、建設現場での実践と改善



環境目標の検証と改善に用いる独自の手法

KCS(カブキ・コンストラクション・システム)改善活動



建設現場は天候や周辺環境の変化により、計画当初とは異なる展開で工程・安全・品質・環境に問題が発生し、時にはトラブルに発展することもあります。

このトラブルを早期に解決するため、『**アンドン**』と呼ばれる**信号(シグナル)**で見える化をします。これにより、建設現場と本支店および本社の事業本部が一丸となって情報を共有し、課題解決に向けた改善活動を行います。

成功事例や失敗事例は会社の財産です。そのため、水平展開によって、良い事例は積極的に各建設現場に取り入れるとともに、悪い事例は今後のリスク評価に活用します。



建設現場の環境マネジメントの手順

建設工事は、一品受注生産や現地屋外生産などの特徴があり、市街地や山間・沿岸などの広範囲で実施します。このような背景から、**工事着手前**には、建設機械による騒音・振動、地盤の掘削や埋戻に伴う土煙(粉じん)の発生、濁った水の河川への流入などのあらゆるリスクを想定し、これを低減するための施工計画を策定します。

工事施工中は、環境側面への影響に対する低減措置が適切に機能しているかを点検し、これを拠点の本支店に「アンドン」で見える化(レベル分け)を行って定期的に報告します。さらに、本支店などが実施する環境パトロールの点検を受けて、建設プロセスにおける環境マネジメントの最適化を図ります。

工事完了後は、環境管理データを分析し、低減措置の効果を明確にします。さらに、次の同様な建設工事に向けた改善などの評価を行います。この結果を社内で報告して情報の共有を行います。

建設現場

本支店・事業本部

① 施工計画の策定



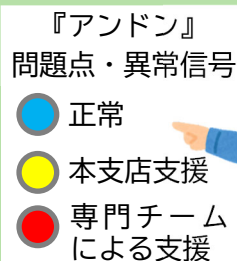
建設工事で発生する環境側面への影響に対して、リスク評価を実施して、影響を低減する方法を決めます。

② 工事検討会の開催



建設工事を開始する前に、環境負荷の低減対策に問題がないか、本支店又は本社の全管理部門で検討して指導します。

③ 現況報告書の提出(定時および緊急時※1)



建設工事の施工管理状態を点検します。結果は、シグナルで報告し、支援レベルを決定します。

④ 環境パトロールによる現場支援



計画した管理方法と建設現場に問題がないかを診断します。改善が必要な場合は、現場を支援します。

⑤ 環境管理データの分析と評価



工事施工中の環境測定記録を基に、環境負荷の低減対策の効果を分析して、定量的に評価します。

⑥ 工事結果報告会の開催※2



建設工事の施工管理で工夫したことを発表します。この報告データを蓄積して、同様の工事に活用します。

※1 工事の進捗中に想定外のトラブルが発生した場合は、直ちに拠点の本支店に状況を報告し支援を要請します。

※2 工事結果報告会の他に、施工体験発表会や若手発表会により、若手・中堅技術者のプレゼンテーション能力を向上するための取り組みを行っています。



アンドン(見える化シグナル)の活用例

道路橋の耐震補強工事の現場で、現場内に仮置きしていた掘削残土が風で飛び散り、近隣の店舗の商品に土埃が付着して苦情が発生しました。

この苦情の対応に関するアンドン(見える化シグナル)は、以下のとおりです。

【問題点・異常の報告】 アンドン信号発信（現場担当者記載範囲 ※不適合（製品）等			KCS「見える化」シグナル 本支店土木部レベル表示及び対応記載、本部も同じ				
対象	内容	対応内容	レベル表示		対応日	対応者	結果
			現場	支店			
環境 目標	粉塵・振動作業等の低減に努める	粉塵・振動低減機械の採用					
	工事用排水の排水管理に努める	工事用排水の濁度管理					
その他 環境	8/19 に土埃による近隣店舗より 苦情が発生	土砂仮置き時はシート養生 店舗付近は仮囲い設置 9/13～	①	②	9/13	土木 部長	苦情処理終了 仮囲い設置確認

《説明》

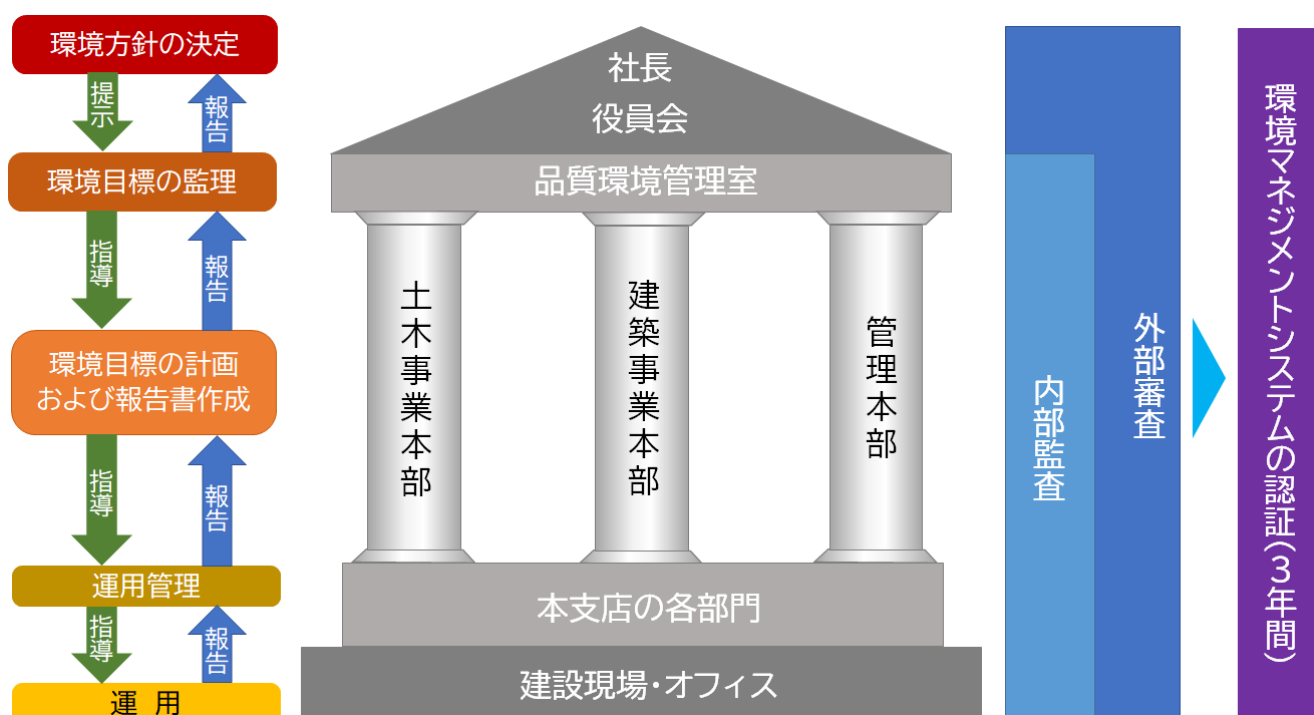
- ① 建設現場の責任者が、苦情の発生を拠点の本支店に報告し、土埃の飛散防止の対応策の支援を要請した。（現場からのシグナル「黄色」）
- ② 本支店の担当責任者が、対応策が適切に実施されていることを確認した。（本支店からのシグナル「青色」）
ただし、経過観察が必要な場合は、本支店からのシグナルは「黄色」となります。

アンドンを活用すると、状況分析の 5W1H(When(いつ)、Where(どこで)、Who(だれが)、What(なにを)、Why(なぜ)、How(どのように))が明確になり(見える化)、チェック機能が向上する効果があります。



環境マネジメントのさらなる質の向上を目指して

環境マネジメントシステム(登録番号:MSA-ES-476)は、(株)マネジメントシステム評価センターの審査を受け、環境管理のシステムが正しく機能していることの認証を受けます。これに先立ち、全社の各部門と建設現場のシステムの運用状況を確認し、不備がある場合は改善します。





本支店での工事検討会

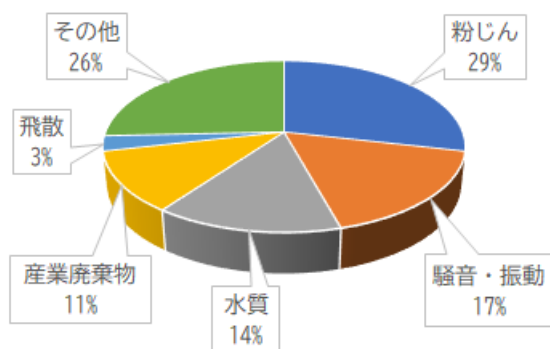
建設工事は、「段取り八分」といわれるほど事前の計画が重要となります。そのため、建設現場の責任者は、「施工計画書」を作成します。この計画書には、工程表、使用材料や建設機械のリスト、施工の手順と工法、品質・出来形管理、安全管理、環境管理を具体的に記載します。これらは、工事が開始する前に、拠点の本支店の管理部門が内容を審査して指導します。

本支店	土木	建築
茨城	16件	12件
東京	4件	3件
大阪	2件	1件
計	22件	16件

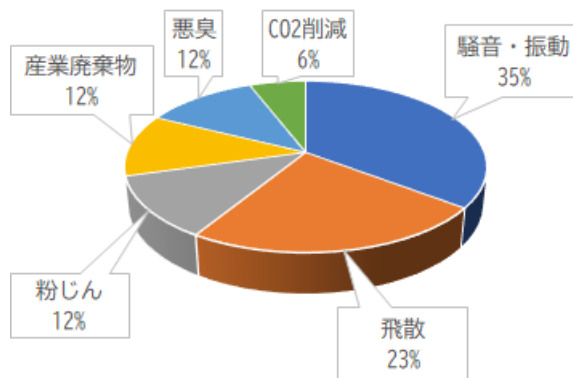


この検討会において、環境側面の影響に対する具体的な措置の方法を指導し、施工計画書に反映します。以下のグラフは、環境側面への指導項目の割合を示しています。

環境負荷低減の措置（土木）



環境負荷低減の措置（建築）



この結果から、
土木部門では、粉じん、騒音・振動、水質（濁水・油漏れ）に対して配慮する必要があります。
建築部門では、騒音・振動、飛散（風散）、粉じんに配慮する必要があります。



本社での工事検討会

請負金額が、土木工事で 3 億円以上、建築工事で 5 億円以上の建設現場は、本社工事検討会で施工計画を審査します。この検討会には、経営トップと各事業本部の責任者が出席して、施工方法や安全対策、環境対策の計画に不備がないかを確認します。

（2022年度は、土木部門で10件、建築部門で11件の合計21件の工事検討会を実施しました。）



受注経緯の説明

建設工事の概要説明
（施工場所・工事概要・施工方法）

社長・役員からの質疑に対する応答

意見交換



環境側面への影響低減対策の結果報告

建設現場の責任者は、工事検討会で指導された環境側面への影響低減対策の結果を検証します。また、改善が必要な事項を提起し、問題点の解決に向けた対応策などを報告します。さらに、これらの情報を共有し、今後の同種工事の環境側面への影響の低減に活用します。

《報告事例(抜粋)》

工事完了後に、環境目標の実施結果を報告し、全社で情報を共有します。

工事区分	部門	発注者	工事検討会での目標	実施結果
港湾工事	土木	都道府県	海水中への油脂の流出をゼロにする	中和剤と吸着マットを常備していたが油脂の流出はなかった
道路工事	土木	国土交通省	近隣(住宅、田畑、市道)への濁水の流出防止	貯水槽の濁度・pH値を測定確認後に排水した
下水道工事	土木	市区町村	埋設管・架空線の損傷事故の防止	試掘調査の実施と架空線の防護管を使用した
農業用水工事	土木	農林水産省	借地した農地の返還時の異物混入の防止	借地返還時の立会確認では異常が確認されなかった
ビル新築工事	建築	民間	解体、杭、道路使用の届出と事前通知の実施	遅滞なく届出を行い、近隣への事前通知を実施した
校舎増築工事	建築	市区町村	無駄な騒音・振動の防止と工作業のCO2削減	発電機の設置場所の工夫とアイドリングストップを実施した
商業店舗工事	建築	民間	資機材の風散防止	作業中及び終了後の資材等の風散養生を徹底した
校舎改築工事	建築	民間	無駄な騒音・振動の防止	騒音振動計の設置と防音シートを使用した

《環境側面への影響低減対策(抜粋)》

騒音・振動低減対策の実施例



番号①:防音シートの設置

作業足場の外側に設置することで、内側の作業音を低減する。

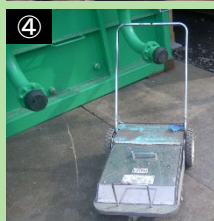
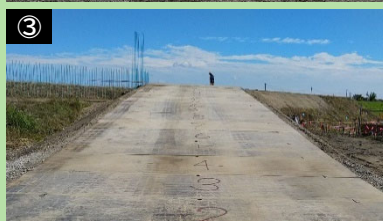
番号②:低騒音型機械の使用

防音効果の高い機械を使用して内燃機関(エンジン)の騒音を低減する

番号③:敷鉄板の設置

作業ヤードに鉄板を設置して重機や車両の振動を低減する。

粉じん低減対策の実施例



番号①:路面の散水

水を撒くことで土埃の舞い上がりを防止する。

番号②:運搬車両のタイヤ洗浄

作業ヤードを出る前にタイヤに付着した泥を洗い流す。

番号③:敷鉄板の設置

路面を鉄板で覆い、土埃の舞い上がりおよび路面の損傷を防止する。

番号④:路面清掃機の使用

人力と比べて作業効率が良い

現場パトロールでの環境点検(本支店)

本支店では、管轄するすべての建設工事の作業所を定期的にパトロールします。その際に、当初の施工計画と実際の現場の環境状態に問題がないかを確認します。問題がある場合は改善の指導を行います。

区分	点検項目	確認事項	土木達成率	建築達成率
管理体制	① 緊急事態への対応準備	連絡体制、作業中止基準、対応訓練、用具・備品の常備	100%	99%
	② 環境一般	品質環境方針の掲示、監視測定計画	100%	100%
	③ 環境側面	環境側面の特定(定期的な見直しを含む)	100%	100%
	④ 法規制遵守	該当する法規制の特定(発注者の要求、近隣協定なども含む)	100%	100%
公害防止対策	⑤ 交通対策の措置	工事車両の第三者への影響低減対策	100%	99%
	⑥ 路面の維持、排水処理	届出、規制値の順守、測定記録、濁水処理	100%	97%
	⑦ 埋設物・空中線等の管理	事前調査、管理者立会、作業方法・手順、防護措置	100%	100%
	⑧ 建設廃棄物・建設副産物	事前計画、届出・告知、分別保管、マニフェスト管理	100%	99%
	⑨ 近隣の苦情、要望事項の処理	外部とのコミュニケーション、受付対応手順、対応の記録・報告	100%	100%
	⑩ 飛散・粉塵	事前調査(風向き)、防止対策	99%	99%
	⑪ 騒音・振動、排出ガス対策	事前調査、適合車両の選定、啓蒙教育、届出、規制値順守	100%	100%
	⑫ 土壌・水質汚染防止	事前調査、監視測定、防止対策	100%	83%
	⑬ 地盤沈下	施工方法、予防対策、監視測定	100%	100%
健康障害予防	⑭ アスベスト対策	事前調査、作業計画・届出、飛散・漏出防止措置	100%	100%
	⑮ 有機溶剤・特定化学物質	SDSの確認、リスクアセスメントの実施、保管管理	98%	76%

※土木及び建築の達成率は、三拠点(茨城・東京・大阪)の環境パトロール点検の評価点の合計を平均した値です。



社長・役員パトロール

会社経営の基盤である建設工事を、社長および役員が現地の作業環境について確認します。

部門	環境に関する点検項目のコメント
土木	消化タンク内の硫化水素濃度及び酸素濃度の計測状況が良好である。 高年齢労働者の適正配置が行われている。
土木	高圧線上限高さの明示など危険箇所の注意喚起が実施されている。 高年齢労働者の体調確認、健康診断・既往症の確認が徹底している。
土木	コロナ感染症対策が適切に実施されている。 安全通路をはじめとした安全性向上の工夫をしている。
土木	安全掲示板で当日の作業の内容と指導事項を見える化している。 高年齢労働者の体調確認、健康診断・既往症の確認が徹底されている。
土木	異なる作業の区分明示を適切に実施している。 高さ制限明示が設置されており良好である。
建築	指差呼称による安全確認が徹底されている。 高年齢労働者の体調確認、健康診断・既往症の確認が徹底している。





業務のムダの削減の取り組み

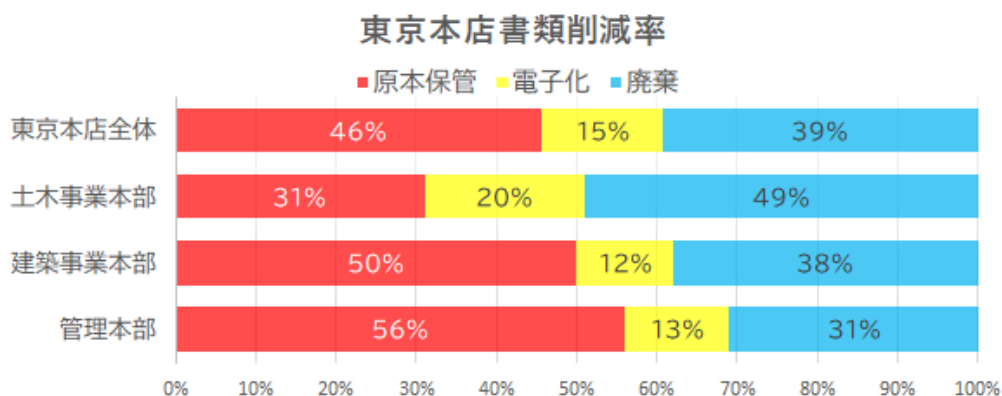
● 書類や資料のペーパーレス化

「ペーパーレス化」とは、従来の紙を使用した文書を電子化して、データとして活用・保存することです。例えば、パソコンで作成した会議や報告書の資料、経理書類などをプリンターで出力(印刷)せず、電子文書で保存します。この文書の電子化のメリットは以下のとおりです。

- メリット1: 文書の検索が容易になる
- メリット2: 紙代・印刷代・保管スペースのコスト削減ができる
- メリット3: 情報の修正および共有がスピーディーかつ簡単になる
- メリット4: 情報漏洩および紛失のリスクを低減できる
- メリット5: 紙の使用および廃棄を削減して森林とその周辺環境を保護できる

《方法・手順》

東京本店内の各部署の書棚や書庫に保管している文書について、原本保管・電子化・廃棄に分類します。分類した結果、以下のグラフのとおりとなり、東京本店全体では **54%の紙の文書を削減**します。



※紙の文書の削減効果は、2024 年春の新社屋移転後に検証します。

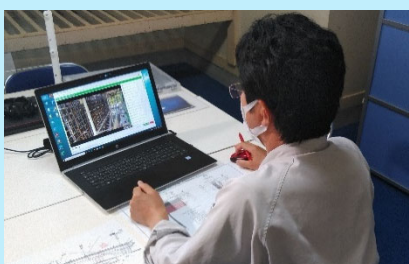
建設業法や労働安全衛生法により、紙による保存期間が定められている文書があります。しかし、今後はデジタル改革関連法や電子帳簿保存法等に準拠してペーパーレス化を推進します。

● 建設現場の遠隔臨場

「遠隔臨場」とは、ウェアラブルカメラやネットワークカメラを利用して、現場に行かなくても離れた場所で検査や立会を実施するシステムです。このシステムのメリットは、**移動時間や待機時間の削減、人手不足の解消、感染症対策など、建設工事の生産性を向上**する方法として普及が進んでいます。

発注機関事務所

見たい箇所や視野の拡大などの指示を音声で伝えます。



リアルタイム化

建設現場

検査者の指示に従ってカメラの視野を移動して動画を送信します





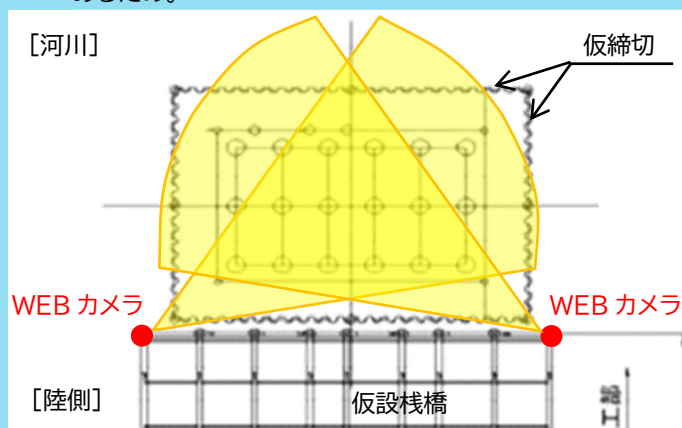
土木事業本部の環境への取り組み

SDGs の達成目標との関連性

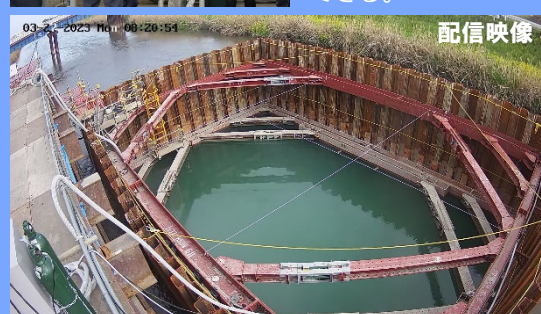
SDGs 達成目標	土木事業本部の環境目標	運用計画
 8 働きがいも 経済成長も	1. 労働環境の向上のため、4週8閉所の実現を目指す。 【目標値】全作業所の 50%	① 本支店工事検討会にて指導する。 ② 工事現況報告書で状況を把握する。
 3 すべての人に 健康と福祉を	2. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策をすべての作業所にて実施する。(アルコール消毒液の設置と検温)	安全パトロールにて活動状況を確認する。
 12 つくる責任 つかう責任	3. 現場状況の見える化を目指すため、作業所に WEB カメラを設置する。	本支店工事検討会で推奨し、安全パトロールにて状況を確認する。
 11 住み続けられるまちづくりを	4. 持続可能な社会実現に向けて、脱炭素社会づくりに貢献する。	社内 Web 掲示板及び各会議等において脱炭素の動向などを周知し、啓蒙活動を行う。

環境目標3:WEB カメラによる現場状況の見える化

【目的】河川内の仮締切の鋼矢板の変位観測
鋼矢板打設後に変位が生じ、常時モニタリングする必要があるため。



リアルタイムで映像が配信され、カメラの遠隔操作も可能である。そのため、現場事務所以外の店社や発注機関の事務所でも状況確認ができる。



環境目標	目標値	目標達成率	評価
4 週 8 閉所の実現	全作業所の 50%	60% (目標の 120%)	国の直轄工事を中心に 4 週 8 閉所が普及している。今後は地方自治体等へも休日確保の取り組みを働きかけて理解を得る必要がある。
新型コロナウイルス感染防止対策	100%	100%	2023年5月に5類感染症へ移行したが、今後も感染拡大状況を見極めて適切な措置を実施する。
作業所にWEBカメラを設置	数値目標なし	25 件	導入にはコストが掛かるため慎重にならざるを得ない。今後は現場の条件や状況に合わせて必要か否かの判断を行う。
脱炭素社会づくりに貢献する	数値目標なし	23 件	国土交通省港湾局の「みなと SDGs」の登録事業者に認定された。今後も脱炭素化に向けた当社の取り組みを継続し、社内外に情報を発信する。



FILE1



R3那珂川左岸百色山排水樋管改築工事 ～安全対策、仮設計画に CIM モデル活用～

日刊建設工業新聞・2023治水特集(2023年6月12日掲載)



施工はICT(情報通信技術)やCIM(3次元モデル)等を活用し、生産性向上や業務の効率化を図っています。出来形管理も3次元で計測し、従来方法に比べ効率化を図っています。

工事着手前



作業の安全性を高めるための CIM の活用



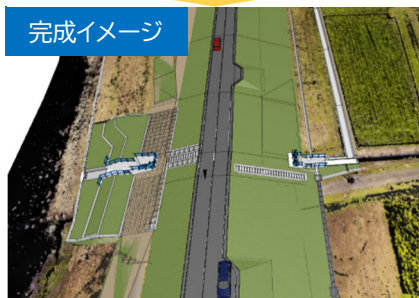
地形データと CIM の合成画像



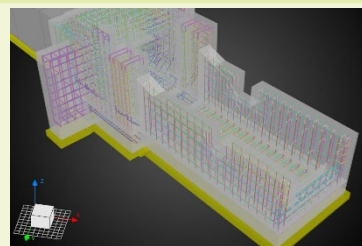
施工時の上空からの撮影画像

デジタル空間上で重機や仮設材の配置を計画して、作業の安全性を検討します。この結果に基づいて効果的な安全対策を実施します。

完成イメージ



鉄筋組立精度の向上による要求性能の確保



設計図面のとおり鉄筋の組立を行った場合に、鉄筋同士の間隔やかぶり厚が適正であるか、CIMを用いて照査します。不具合が生じる箇所を記録して、改善策を提案して設計の変更を行います。

FILE2



R2国道4号東埼玉道路中川連絡線橋下部その3工事 ～安全な水を下流に放流～

春日部作業所



建設工事で発生する濁った水を適切に処理し、排水基準を下回る数値を確認して河川に放流します。

①濁水を水槽に溜める



濁水には土の微粒子や浮遊物などが含まれ、このままの状態では放流すると河川の生態系に悪影響を及ぼします。

②濁水処理機でろ過する



高分子凝集剤を使用し、電気的な中和作用により土の微粒子や浮遊物を付着させて沈殿させます。

③処理水の放流



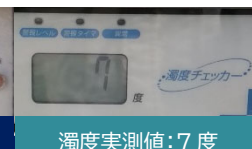
処理水のpH値と浮遊物質量(SS)が排水基準を下回っていることを確認してから河川へ放流します。

施工場所の埼玉県排水基準は以下のとおりです。

- ・pH値:5.8～8.6
- ・浮遊物質量(SS):180mg/L(概ね濁度180度)



pH実測値:7.8



濁度実測値:7度

建築事業本部の環境への取り組み

目次

企業概要

環境マネジメント

各部門の取り組み

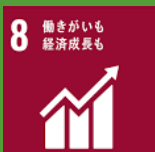
土木部門

建築部門

管理部門

最近のトピックス

SDGs の達成目標との関連性

SDGs 達成目標	建築事業本部の環境目標	運用計画
 16 平和と公正をすべての人に	1. ステークホルダーからの要求事項を遵守する >> 重大な不適合ゼロを目指す	拠点検討会において要求事項を「見える化」し、その遵守方法と、万が一発生した不具合に対する対応手順を明確にする
 12 つくる責任 つかう責任	2. 脱炭素社会に向けた貢献 施工時 CO2 削減活動への取り組み >> 活動による削減率 3.0%以上	作業所における再エネの採用や重機械省エネ運転への取り組みなど、エネルギーの削減に向けた活動を現場と一緒に考える
 8 働きがいも経済成長も	3. 4週6閉所の実現 >> 全稼働現場の 20%以上を実現目標とする	営業部との連携による発注者への理解(特に民間)と、生産性向上も視野に入れた工程管理の徹底を実践していく
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	4. 建替え物件の設計作業時には、周辺環境に配慮した設計を行う	既存施設を稼働させての建替え計画について、現業部の意見や提案も積極的に取り入れ顧客満足に繋げる

環境目標1:ステークホルダーの要求事項を遵守



検知センサー

電光掲示板

センサー

第三者事故防止の要求に対しセンサーを設置

環境目標2:施工時 CO2 削減活動への取り組み



Nox・PM 低減装置取付

環境配慮型燃料として建設用重機・発電機でのご利用が進んでいます

GTL燃料は天然ガスを原料として製造される合成燃料です。

GTL Fuel 環境性能

- CO₂が軽油と比べ8.5%削減可能。
- 貯蔵安定性が長く4～6年使用可能。
- NOx・PMを減5%し労働環境を改善します。
- 低炭素燃料(GTL)の活用が期待されています。

重機燃料の変更

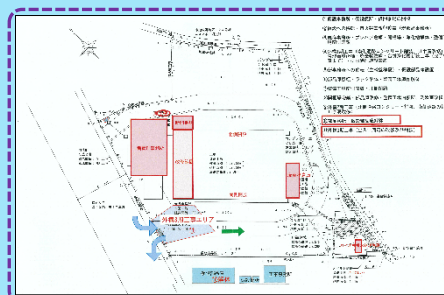
環境目標3:4週6閉所の実現



本工事は週休2日促進工事です。

東中洲創庫(建築)第2住宅建築工事の施工が 株式会社東京本店

環境目標4:建替え物件の設計は周辺環境に配慮



工事の進捗に合わせ、敷地内仮設計画や作業手順を図面化し、施設関係者の動線や安全設備を段階毎に「見える化」させる。

環境目標	目標値	目標達成率	評価
要求事項の遵守	不適合ゼロ	不適合の発生 のゼロ	利害関係者が求める特異的要求事項を理解し、的確な施策の検討と周知を実践できた。
脱炭素社会への貢献	CO2 削減率 3.0%以上	CO2 削減率 2.8% (目標の 93%)	目標値には達しなかったが、アイドルリングストップや高効率照明の使用など、現場でできること、すべきことの理解と意識が高まっている。
4週6閉所の実現	全稼働現場の 20%以上	閉所率 18.1% (目標の90%)	現場条件や天候、発注者の要求事項の要因があるが、今後においても指導と努力は継続する。



FILE1



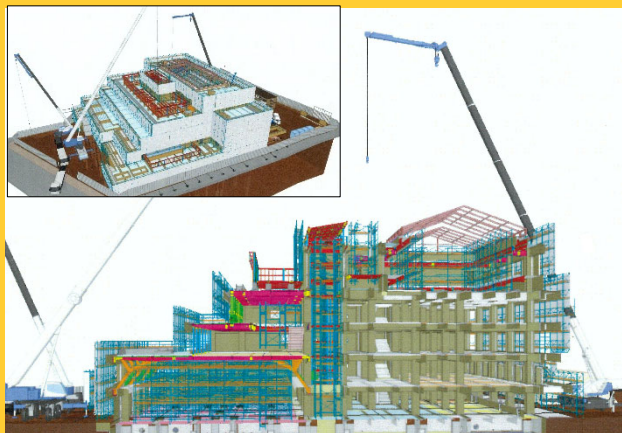
『施工 BIM』を導入し施工精度と生産性の向上を実現！

>> まずは仮設工事と躯体工事から <<



設計事務所が作成する BIM データを基にして、現場施工に活用したものが『施工 BIM』です。

仮設工事(仮囲い・外部足場・内部足場)



①揚重計画、②仮設部材の拾い出し、③施工手順、
④建物との干渉チェック などが可能

土工事(山留・切梁・構台・根切・残土処分)



①重機配置計画、②掘削土量積算、③施工手順、
④安全計画 などが可能

FILE2



再生可能エネルギーを目的としたプラント施設の建設

>> バイオマスプラント <<



SDGs への積極的取り組みの一環として、有機物資源を再利用した発電所建設に参加しています。



●敷料バイオマスプラント
※動物の糞・尿を燃焼させ発電するプラント



●木質バイオマスプラント
※木材チップを燃焼させ発電するプラント



管理本部の環境への取り組み

SDGs の達成目標との関連性

SDGs 達成目標	管理本部の環境目標	運用計画
 14 海の豊かさを守ろう  15 陸の豊かさも守ろう	1. 企業価値向上のため、社会貢献活動への取り組み・参加を推進する。 【目標値】 年 10 回以上の実施・参加	① 店社所在地での地域貢献活動の実施、または、関係団体等の主催する社会貢献活動への参加、協力等 ② 上記活動状況を記録、全社での実施・参加状況を水平展開し、全社員への社会貢献取り組みに対するモチベーションを高める。

地域の環境保全活動への参加

《活動概要》

地域環境活動の一環として、東京本社・本店が入居するマルカビルや各本支店周辺の定期的な清掃活動を実施しています。また、行政機関等が主催・後援する環境保全活動にも参加しています。

東京本社 目白地域清掃活動



茨城本店 吉沢町地域清掃活動



大阪支店 豊崎地域清掃活動



東京湾クリーンアップ大作戦



協賛マラソン大会、ロードレースへの参加



《活動概要》

地元地区の経済活性化や地域の方々との交流を目的として、水戸フルマラソン大会「水戸黄門漫遊マラソン」、「目白ロードレース」等に協賛し、当社から社員多数がランナーとして参加しています。

環境目標	目標値	目標達成率	評価
社会貢献活動の実施	10 件/年	10 件/年 (目標の 100%)	昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で目標達成率 50%であったが、今年度は地域のイベントが再開され、目標件数を達成した。今後も、積極的に当社の環境活動を実施し、地域貢献となるイベントへの参加を促す。



サイバーセキュリティ推進によりセキュアな環境を目指し
社会のサプライチェーンに貢献します

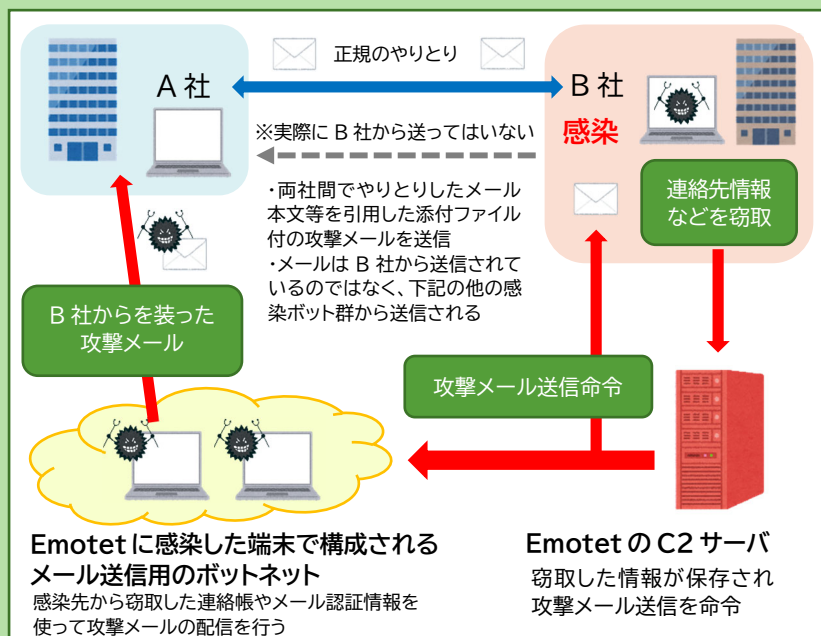


【目的】

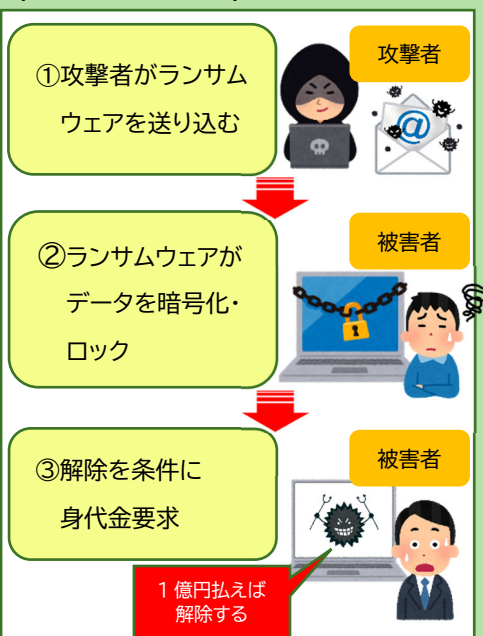
昨今の企業を狙ったマルウェアは、被害にあった企業だけではなくビジネスを共にする企業にも波及していきます。そのため、弊社ではサイバーセキュリティの対策と推進を通して、お客様、関係団体様、協力会社様のセキュリティとプライバシーを守る活動を行っています。

昨今のサイバー攻撃 Emotet、ランサムウェアによる二重脅迫

〈Emotet(エモテット)〉



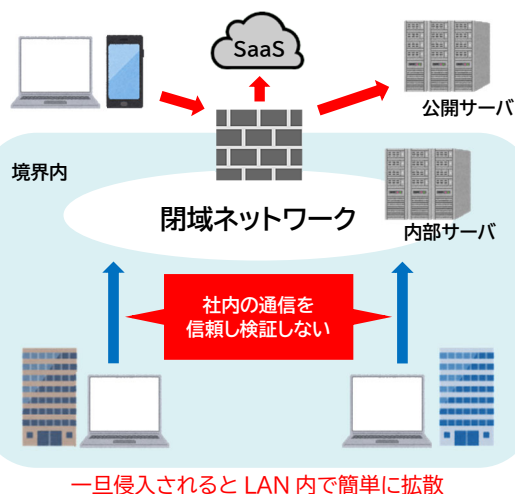
〈ランサムウェア〉



サイバーセキュリティ対策 ゼロトラストセキュリティの推進

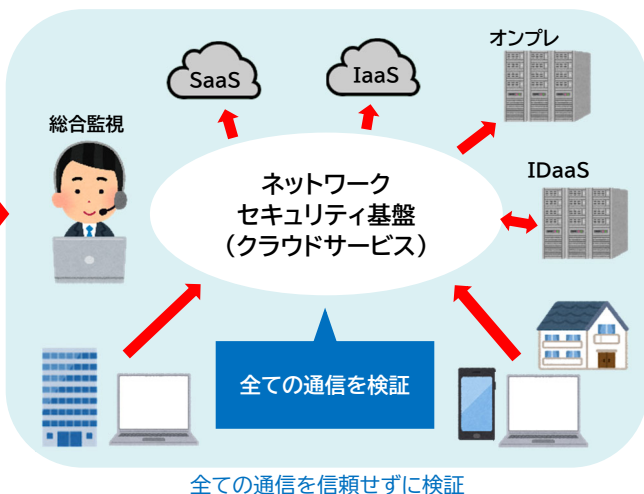
これまでの対策

境界防御モデル



株木の目指すセキュリティ対策

ゼロトラストモデル





ICT・現場支援室の業務の紹介

情報通信技術(ICT)を活用した測量及び3次元モデルの融合

建設工事の生産性の向上を目指して



工事の開始前の現地測量(位置・標高)は、従来から二人一組で行い、現場の隅々を移動して測量を行います。しかし、この方法では屋外作業が数日間にわたり、測量データの整理や製図に多大な労力と時間を必要とします。そのため、省力化と省人化を目的に、地上型レーザースキャナーを使用することで、現地での測量が一人でも可能になります。これによって、デジタル空間で地形データと3次元モデルを重ね合わせて、視覚的な効果(見える化)による施工の効率化と安全性の向上を支援します。

ICTを活用した業務支援の内容

計画・調査



作業計画打合せ



現地状況把握

◆作業計画

まず、支援室のメンバー全員で設計図書(図面など)を確認します。

次に、業務の役割分担を決めて、現地調査の担当者を中心に測量の範囲、作業の方法及び手順、作業のスケジュールを計画します。

◆現地調査

現地では、建設現場の責任者(現場所長)から現状の説明を受けて、測量作業の方法と手順の打ち合わせを行います。また、現地調査の結果は、支援室のメンバー全員と情報を共有します。

測量作業



地上型レーザースキャナ計測

◆測量作業

写真の機材は、全方向360°回転しながらレーザーを照射し、ミリ単位の密度で点群データを計測します。ただし、機材の真下や構造物の裏側は計測ができないため、一定の間隔で移動します。

現場で計測したデータを支援室に持ち帰って解析するため、測量機材が正常に作動し、測量範囲のデータを適切に記録していることを確認しながら作業します。

モデル作成



CADによる3Dモデル化

◆3次元(3D)モデルの作成

2次元の設計図面から3次元モデルを作成します。作成時は、構造物の鉄筋等が互いに干渉しないかを確認し、不具合を発見した場合は記録して現場所長に伝えます。そのため、CADオペレーターに求められる能力は、すべての図面を確認し、経験に基づく明確なデザインと現場感覚を持ち合わせていることです。

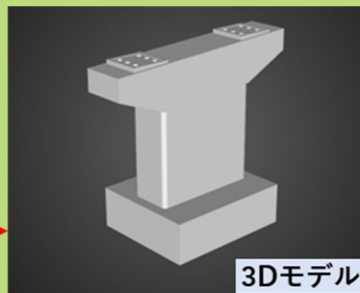
成果品の現場への納入

作成した地形データや3次元モデルは、施工への応用や発注者及び住民への説明資料に使用します。

また、完成後に構造物をスキャニングしてデータ化し、デジタル空間で形状寸法の計測が可能になります。



地形+3Dモデル



3Dモデル



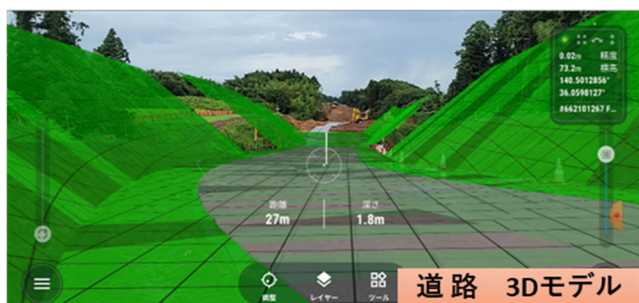
寸法も計測可能

ICT を活用した新たな取組の事例

拡張現実(AR)の活用

拡張現実(Augmented Reality:AR)とは

現実世界から得られる視覚の情報に、コンピュータグラフィック(CG)を補足した技術です。例えば、専用のゴーグルやモニターなどを通して見た現実の風景に、CG を重ね合わせて表示します。



活用目的・効果

- 現実の画像に、建設工事の完成 3D データを重ね合わせることで、これまでは具現化が困難だった立体的な完成イメージを「見える化」できます。
- 人工衛星の GNSS 位置情報を応用して、現地で構造物等の3Dモデルを AR で確認できます。
- 完成イメージを工事関係者の全員が共有することで、ムリ・ムダを省いた施工が可能となります。

《画像の色分けの例》

灰色 ⇒ 道路

緑色 ⇒ 法面

黄色 ⇒ 構造物(橋梁の土台(橋台))

3次元プリンターの活用

3次元(3D)プリンターとは

3次元データをもとに、合成樹脂や石膏粉末をノズルで吹き付けて積層にする方式や、光硬化性樹脂に紫外線を照射して硬化する方式により、立体物を造形する装置です。



3次元プリンター



活用目的・効果

- レーザースキャナーで計測した地形の情報をデータ化し、3次元プリンターで出力してジオラマ模型を作成します。
- 地盤の起伏や縮尺寸法が明快なため、土地の利用方法や構造物の景観に対する影響検討などに活用できます。
- 従来は紙の図面を用いた説明の方法のため、発注者や住民からの理解を得ることが困難でした。しかし、立体的なジオラマ模型を用いることで、建設工事の調整や合意形成の効率化が期待できます。



新入社員研修の実施報告



2023年4月に土木8名、建築9名、営業1名の新入社員が入社しました。

入社後は、全体研修の修了後に部門別の研修を受け、配属先へ移動となります。短い期間ですが、互いに協力して実務に必要な基礎知識を学びます。また、研修期間中は、若手の先輩技術者が配属されますので、仕事に対する心配ごとなどを相談しやすい環境を整えています。

《全体研修のスケジュール例》

日程	午前	午後
1日目	オリエンテーション	人事制度、建設業法など
2日目	ビジネスマナー(外部講師)	ビジネスマナー(外部講師)
3日目	ビジネスマナー(外部講師)	ビジネスマナー(外部講師)
4日目	健康診断	自動車運転の技量講習
5日目	安全管理	低圧電気取扱の特別教育
6日目	墜落制止器具の特別教育	墜落制止用具の特別教育
7日目	会社の諸制度の説明	事務連絡など



(研修開催場所：茨城本店会議室)

《土木事業本部の研修スケジュール例》

研修内容	期間
土木についての概要説明	1日間
ソフトウェア(Word、Excel)の入力実技	1日間
CADソフト(IJ-CAD)のガイダンスと実習	1日間
コンクリート工事の講習	1日間
工事で使用する道具等の説明	1日間
測量実習(座標計算及び光波測距儀の取扱い)	2日間
現場管理ソフト(デキパート)の基本操作と実習	1日間
測量(丁張)実習	3日間
設計図面の読み方講習	1日間
構造物の数量計算	1日間



(研修開催場所：神立資材センター内)

《建築事業本部の研修スケジュール例》

研修内容	期間
建設業のガイダンス	2日間
ソフトウェア(Word、Excel)の入力実技	4日間
現場管理アプリの基本操作と実務訓練	4日間
現場測量実習	4日間
CADソフト(Jwcad)の基本操作と作図	3日間
CADソフト(Jwcad)による施工図の作図	4日間
基本的な数量拾い	1日間
資格取得に向けたガイダンス	3日間



(研修開催場所：茨城本店ほか)



若手発表会の実施報告



若手技術者のプレゼンテーション能力の向上を目的に、実際に経験した建設工事の担当業務についての発表を東京本社で実施しています。発表会には、株木社長をはじめ役員が出席し、気付きや考え方、業務の工夫などについて、意見交換を行います。

● 土木事業本部の若手職員の発表内容

所属	経験年数	発表テーマ
茨城	4 年目	河川内工程制限下における鋼管矢板基礎と橋脚躯体工の施工について
茨城	5 年目	暑中におけるステンレス水槽の施工について
茨城	5 年目	現用配水ポンプ処理施設を稼働しながらの耐震補強工事の施工について
茨城	8 年目	軟弱地盤における配水樋管の改築工事について



● 建築事業本部の若手職員の発表内容

所属	経験年数	発表テーマ
茨城	4 年目	商業用ビルの移転工事における KCS 改善活動について
茨城	5 年目	工場施設の福利厚生棟新築工事について
東京	6 年目	集合住居の建替え工事における KCS 改善活動について
東京	8 年目	(仮称)新マルカブビル建設計画について



「株木こまちの会」の活動報告



株木こまちの会とは？

「女性活躍推進現場での活動を通じて、女性が働きやすい環境を整備！！」を目的に、株木建設で働く女性技術者の連携を深めるための意見交換会です。(2022 年に発足)



メンバー(現在 9 名)

土木部門と建築部門

内勤技術職:2名

現場技術職:6 名

人事課(取りまとめ役):1 名

これまでの活動内容ならびに要望を踏まえた実施施策

- 情報交換、先輩社員からのアドバイス
- 妊娠・出産に関する制度概要の周知
- 女性目線の意見を取り入れた現場事務所「株木モデル」の作成ならびに社内展開
- 時短勤務・育児との両立の検討課題の抽出と社内制度の見直しに対する意見のとりまとめ



「けんせつ小町」は、建設業で働くすべての女性の愛称です。

一般社団法人 日本建設業連合会では、けんせつ小町活躍推進計画の実現に取り組んでいます。

かぶき小町(都住 28H-104 東(江東区南砂三丁目)の建築工事の活動内容を右の QR コードから閲覧できます。





工事成績優良企業の認定



2022年度



国土交通省(港湾空港部を除く)の発注工事において、過去2カ年度に完成した土木工事(3件以上)を受注した企業の工事成績評定点の平均点を算出し、企業の工事成績評定結果のランキングを作成して審査を行います。

当社は、関東地方整備局が発注した 2020 年度・2021 年度の 12 件の土木工事において、請負工事成績評定で平均 81 点を取得し、上位 77 社の一企業として昨年度に引き続き工事成績優秀企業の認定を受けました。

認定された工事成績優秀企業は、工事を受注した際には発注者が行う中間技術検査を省略することができます。また、総合評価方式において企業の評価が優位となり、工事受注の機会が増加します。



「みなとSDGsパートナー」の登録認定



国土交通省港湾局は、世界的な SDGs 達成に向けた取組の高まりを受け、我が国港湾の持続可能な発展を目指した「みなと SDGs パートナー登録制度」を2022年に創設しました。

当社は、第1回登録事業者(88 者)の港湾建設事業者の一企業として登録されました。当社の技術力やKCS改善活動などを応用したSDGsの目標達成への取組が認められたこととなります。

登録認定された港湾関連企業は、国土交通省港湾局のホームページで SDGs の取組を紹介され、シンボルマークの使用が許可されます。これにより、企業の人材の確保・育成、新たな事業機会の創出などの他、企業の対外的なイメージ向上のメリットが想定されます。

さらに、ステークホルダー(近隣住民、港湾関連事業者、監督省庁等)との連携により、港湾の持続可能な発展に貢献することができます。



表彰等の受領(一部)

種別	表彰者	受賞者
認定証	国土交通省 関東地方整備局	工事成績優良企業
表彰状	国土交通省 関東地方整備局	安全管理優良受注者(一般土木工事、維持補修工事)
表彰状	国土交通省 関東地方整備局	技術者: 笈沼洋一、池谷孝之
表彰状	茨城県土木部長	茨城港大洗港区波除堤津波高潮対策工事
表彰状	茨城県 日立市	中里中学校校舎改築事業建築工事
表彰状	一般財団法人 全日本建設技術協会	(仮称)北沢トンネル本体工事
表彰状	東京土木施工管理技士会	優良技術者: 末松泰三
表彰状	水戸市建設業協同組合	労働安全衛生に関する標語・最優秀賞: 齋藤周蔵
感謝状	東京フード株式会社	(仮称)東京フード(株)筑波工場福利厚生棟新築工事
感謝状	泉町1丁目地区市街地再開発組合	水戸市新市民会館等施設建築物新築工事



社内の資格保有者数



当社は、人材の育成のため各種資格の取得に向けた支援を実施しています。例えば、受験対策資料の作成や実力テストの実施、通信教育の紹介などがあります。

有資格者は建設企業の原動力であり、社員の成長を支援することが企業の務めであると考えます。

資格名	2022 年度 新規登録者数	累計有資格者数	摘 要
技術士	0 名	7 名※1	国家資格
技術士補	1 名	7 名	国家資格
1 級建築士	0 名	29 名	国家資格
2 級建築士	1 名	18 名	国家資格
測量士	0 名	22 名	国家資格
測量士補	0 名	21 名	国家資格
1 級土木施工管理技士	1 名	119 名	国家資格
1 級土木施工管理技士補	2 名	2 名	国家資格
2 級土木施工管理技士	1 名	14 名	国家資格
1 級建築施工管理技士	1 名	95 名	国家資格
2 級建築施工管理技士	2 名	9 名	国家資格
1 級造園施工管理技士	0 名	17 名	国家資格
1 級管工事施工管理技士	0 名	5 名	国家資格
1 級電気工事施工管理技士	0 名	5 名	国家資格
甲種火薬類取扱保安責任者	0 名	54 名	国家資格
コンクリート診断士	0 名	4 名	民間資格
コンクリート技士	4 名	37 名	民間資格
海上工事施工管理技術者	1 名	9 名	民間資格
簿記検定 1 級	0 名	2 名	国家資格
簿記検定 2 級	0 名	5 名	国家資格
宅地建物取引士	0 名	8 名	国家資格
1 級建設業経理士	0 名	3 名	民間資格
2 級建設業経理士	3 名	23 名	民間資格

※1 技術士(建設部門):6 名、技術士(農業部門):1 名

環境報告書 2022

2023(令和5)年 9月 1日発行

株木建設株式会社

<https://www.kabuki.co.jp/>

〒171-8560 東京都豊島区高田三丁目31番5号

TEL:03-3984-4111 (代表)

法律で認められた行為を除き、本報告書の記載内容の転載は必ず許可を得てください。



登録商標 第6057557号

ロゴカラーが象徴しているもの

■ …太陽、情熱 ■ …芽、成長、環境との調和 ■ …道、やり遂げる粘り強さ

ロゴマークに込めた想い

すべての生命を明るく照らす太陽のように。

大地に根を張り、成長していく芽のように。

情熱を湛えながら粘り強くやり遂げる、永い道のりのように。

当社のイニシャルである「K」をモチーフに、新しい道を切り開いていく
開拓者としての私たちのあるべき姿を表しています。

私たち株木建設は100年の伝統を活かし、未来に向けて社会に貢献し続けていきます。

